



開物成務

令和5年4月28日(金)発行

校長 津田 千由美

大切な命

新緑がまぶしい季節となりました。新しい学年に進級して早1か月、新しいクラスには少しずつ慣れてきた頃でしょうか。先日4月21日(金)には、今年度初めての授業参観・懇談会、PTA顔合わせ会が行われました。授業参観には全体の8~9割ほどの参加があり、関心の高さが伺えました。開場時刻前から多くの方々がお待ちになっていましたが、皆様が門の前で静かにお並び頂いたこと、また、駐輪場には整然と自転車を並べていただいたことに、大変感謝しております。

また、コロナ禍のため、この3年間のPTA活動は本部役員のための縮小した活動でしたが、今年度はようやく常置委員会を再構成することができました。マチコミによる役員立候補の呼びかけに対し、多くの方々のご賛同くださり、おかげさまで今年度のPTA役員さんの多くは立候補で決定することができました。

こうした、「大人のすてきさん」の後ろ姿を見ているからでしょう。ある日、地域の方と保護者の方から嬉しいご連絡をいただきました。

「蜂が玄関に巣づくりをしていることを、開成小の子どもたちが教えてくれました。」

「1年生が下校コースを間違えてしまい困っていたら、上の学年の子が、その子の下校コースまで連れて帰ってくれました。」

と。

開成小学校には、人を思いやることのできる「すてきさん」が大勢いることを日々実感しています。

さて、4月11日(火)に今年度初のリモート朝会がありました。この日は、2年前に病気で亡くなった愛犬「三太」を題材に、「いのち」について話をしました。

あなたには、「大事だなと思う人」や「大事だなと思う命」が、きっとあるはずです。

それと同じように、「あなたのことが大事」と思ってくれている人が大勢います。

つまり、あなたの命はあなただけのものではないのです。

だから、あなたは自分の命を大事にしなければなりません。

校長先生は、今日は泣かないようにがんばって「三太」のお話をしました。

これからも、自分の命、友達の名、世の中すべての命を大切にしてください。校長先生からのお願いです。

開成小学校の学校教育目標の一つに「いのちを大切にする子」があります。「言うは易し」ですが、このことを自分の行動や意識の中にどう落とし込むか、そこがこれからの正念場です。学校でも機を逃さず指導したり、授業の中でも折に触れ扱ったりしていきたいと思えます。子ども心に「いのちを大切にする」気持ちを育むうえで何より大切なことは、「私は大事にされている」という実感です。「あなたが大事だよ」メッセージを、学校でも家庭でもたくさん届けていきたいものです。

児童会活動始まる~その1~

4月10日(月)1時間め、6年生が5年生に向けて委員会紹介を行いました。委員会活動が初めての5年生に対して、昨年度1年間の委員会活動の経験をもとに6年生の代表がスピーチしました。

「みんなで歌ったり踊ったりして、音楽の力で学校を変えたいです」

「みんなが楽しく体を動かすことができるようにしたいです」

「心を込めて新しい放送を全校に届けたいです」

一通りの紹介が終わった後、委員会ごとに分かれて質問タイムの時間をとりました。全体の前ではなかなか聞けなかった本音も飛び交い、「自分はこの委員会です」
「がんばりたい」という志を新たにしました。



児童会活動始まる～その2～

4月20日(木)の昼休み、第1回目の児童代表委員会が行われました。この代表委員会には、3年生以上の各学級の代表と各委員会の委員長が参加します。この日の議題は、「年間スローガンについて」「委員会紹介について」でした。進行役の企画委員会の6年生から、「各クラスで、昨年度何ができて、何ができなかったかを話し合い、このことをもとに年間スローガンを考えてください」と伝えられました。

また、私からも子どもたちに伝えたことがあります。

「開成小学校の学校目標は『すてきさんがつくる・育てるじまんの学校』です。皆さんにとって、どんな学校になることが『じまんの学校』なのか、ぜひこの機会にクラスで話し合ってみてください」

この代表委員会をうけ、今週は各クラスで学級会が開かれました。150周年という大きな節目を迎え、みんなの力で「じまんの学校」を創っていきたいと意欲を高めています。

地域を知ろう

4月24日(月)1～2時間め、3年生が校外学習に出かけました。3年生は、年間をとおして、社会科や総合的な学習の時間を使って地域を知る学習を行います。この日は、開成小学校の北側をめくりながら、気づきや疑問を膨らませていきました。

「アッ！ここ知ってる！ あじさい祭りをやっているところだよ」

「ぼくはあじさいの花を切る仕事をしたことがあるよ」

今後は、子どもたちの「どうして?」「やりたい」をもとに、学習を深めていきます。

交通安全教室

4月17日(月)3時間め、1年生を対象に交通安全教室を行いました。松田警察署スクールサポーターさん、地域の青少年指導員の方々にお越しいただき、各教室でお話をいただきました。

「歩行者用の青信号が点滅していたら、横断歩道を渡ってもいいですか?」

の問いに

「だめー」と、自信をもって応えていた子どもたち。

これからも安全に気を付けて登校してください。

地域の方々も見守っています。



ちよつと前まで、庭の百日紅に、いろいろな鳥たちがえさを求めてやってきていました。鳥たちを驚かさないうように窓からそつと眺めることが、春先の私の日課となっています。

例年春になると、保護者と子のこんな光景も繰り広げられます。

子どもが昇降口に入るまで、心配そうに見守る保護者。

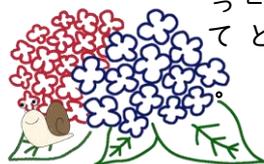
毎朝泣きながら登校する子を何とかなだめ、勇気づけながら一緒に歩いてくる保護者。

ゆっくりペースで歩く我が子を、数メートル後ろから見守りながらついて歩く保護者。

そんな子どもたちも、1年、2年と経つうちに、すっかり保護者から巣立っていきます。あの頃が、まるでうそのように…。しっかりと自立し、自分の脚でちゃんと歩いて登校できるようになります。

「育む」という言葉の語源は「羽」だそうです。なぜ「羽」が語源なのか：それには、こんな意味があるそうです。鳥の「羽」でまあるく包み込む。これが、そもそもの「育む」のイメージなのだそうです。親鳥がヒナを包んで「よしよし」と守っているうちに、ヒナに自然と力がつく。力がつけば、ヒナは自分から巣立っていく。これが「育む」ということです。

人間の子どものも同じ。子どもが自立するために、一人ですべてできるでしよ、「自分でやりなさい」という言葉だけでなく、まあるく包み込んで見守ってあげる「羽の時期」をつくってあげることが必要です。そして、「羽の時期」は、子どもによつてその期間が異なり、長い子もいれば、短い子もいる：そう思えば、少しゆとりをもって子育てができそうな気がしませんか。



わたしのひとりごと…